

せたがや 町総連だより

第47号

発行 世田谷区町会総連合会

世田谷区若林4-31-9ポライト第2ビル202

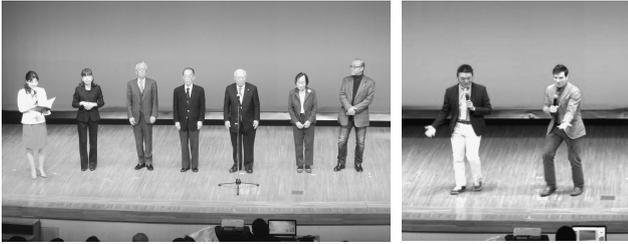
☎・FAX 5481-3456

発行人 会長 山野井 崇 二

編集 情報誌編集委員会

編集委員長 堀江 義之

「町総連トークイベント」第2回も大盛況！



真冬の寒さが続く中、比較的暖かな晴れの日の1月20日土曜日の午後2時、烏山区民会館ホールにて、2年後の東京オリンピック・パラリンピックに向けた気運醸成のためのトークイベントを開催しました。開場前に150人以上が列を作り、約400人が来場する満員御礼の大盛況となりました。

まず町会総連合会を代表して、山野井会長が、「町会・自治会がオリンピック・パラリンピックの成功に向けてムードを盛り上げていきましょう。多くの方が地域で活動に参加し、わが町世田谷の良さを再認識しながら、世界から訪れる方々と自然にふれあい、世田谷を好きになってもらうにはどうしたらよいのか考えるきっかけになればと思います。」と挨拶して幕を開けました。

第一部は、日米お笑いコンビ・パッケンマッケンによる、客席も巻き込む講演「外国人をおもてなし、コレで完璧」でした。

舞台にお二人が登場し、まずは簡単な英語の挨拶、会場との掛け合いで、早くも場内は一体化し、笑いの渦となりました。次に、客席の全員が立ち上がり、席の前後で握手を交わし、ニックネームや住んでいるところなどをお互い紹介しあい、会場内がコミュニケーションの輪に包まれました。

「オリンピック・パラリンピックには世界中の人が来ます、世田谷のおすすめをたくさん紹介しましょう。いろいろな人とコミュニケーションをとることが重要、相手に情報を与え、相手のことも聞くことでお互いに楽しくなり、おもてなしにつながります。海外の方は、日本に来たら日本人と日本語でしゃべりたいと思っているのです。」と話し、沖縄での出来事を紹介されました。道で外国人数人とすれ違うときに、米国出身のパッケンが英語で声をかけると、つまらなそうに「ハイ」と返されました。一方、日本人のマッケンが「こんにちは」と挨拶すると、全員が嬉しそうに「コンニチハ！」と返してくれたのです。

「皆さんは英語が話せますか」という二人の問いかけに、はじめは場内ほとんど挙手はありませんでした。群馬出身のマッケンが自らの体験をもとに「パーフェクトな英語でなくても、知っている単語

をならべて伝えればいいんです」と力強く語り、「スポーツだと小・中の6年卓球をやっていたらできると答えるでしょ。英語も一緒です。小・中・高で英語を学んだじゃないですか。」このお話の後に、もう一度「英語を話せますか」と問うと、会場内一同が大きな声で「イエース！」。

せっかくのオリンピック・パラリンピック、自信を持って「会話を楽しむ、コミュニケーションをとる、外国人をおもてなし、楽しんでもらいたい」としめくくって、第一部は終了しました。

第二部は、「ご近所で応援！スポーツで熱血まちづくり」のタイトルで、世田谷を愛するタレントの勝俣州和さんと、ロンドンとリオのオリンピック2大会で、競泳のメダルを獲得した星奈津美さんの対談が行われました。

勝俣さんは著書「やさしくなるとうまくいく」の内容に触れ、思いやりやおもてなしは何もなくとも、誰にでもできる無限のものである。相手のことを思い、やさしくなることを何よりも大切に生きる方を熱く語りました。そして、「オリンピック・パラリンピックを子供からお年寄りまでみんなで応援し、盛り上がろう。大会の期間に合わせて、夏祭りや盆踊りなどを地域で開催すれば、皆さんも大会の参加者ってことですよ」と呼びかけられました。

また、星さんからは、「地元での応援は選手の力になります。外国人にも気軽に日本語で声かけしましょう。それがふれあいになります。水泳教室で教えている子供たちにとってのオリンピックがどんなものになるか、自分もわくわくドキドキなんです」と期待をふくらませていました。

星さんは2つの五輪メダルを披露し、勝俣さんがその重さや大きさの違いにびっくりしていました。

馬事公苑で行われる馬術競技について、子供からお年寄りまで男女の隔てなくできる、ぜひ会場で生で観覧し応援したいという勝俣さんの言葉には、場内に共感が広がりました。

お二人から、「ぜひ世田谷全体で2020年を盛り上げていきましょう」とのお話をいただき、イベントをしめくくりました。



地域情報

世田谷地域

世田谷上町町会の取組み

世田谷上町町会 会長代行 松本 稔

上町町会はボロ市通りの両側に位置して、1500世帯の会員が加入しています。3ブロックの地区長が各ブロック5組の組長より7～8名の班長に行政や、地区のお知らせなどの回覧板を回しています。町会では特に防災活動、防犯活動に力を入れています。ボロ市通り中央の天祖神社にて「救急救命士講習会」を世田谷消防、消防団の指導により町会員多数の参加で行っています。AEDの取扱い訓練、心臓マッサージの講習会で取得した体験は皆様より大変喜ばれています。

この地域の災害時は区立桜小学校が避難所です。町会では避難所運営委員に多数の役員を配置して、協議、訓練をしています。災害時町会では高齢者の一人暮らしや障害者の方々の安否をどの様に確認したらよいか検討しているところです。

民生委員の方がお伺いしてもドアを開けてくれないので、寝込んでしまったのかと町会役員に安否を聞きに来られます。大家さん立会いで入れてもらおうと、風邪をひいて寝込んでいたので薬を買って届けたことで体調が良くなりました。行政からの「高齢者安心コール」で元気確認の連絡が頻繁にあるのでうるさいと布団をかけている方もいました。

上町地域の守り神天祖神社で大晦日より参拝客に御神酒や温かい甘酒を提供して、年が明けて2日、3日と箱根駅伝に選抜された区内の大学を大型テレビを設置して応援しています。12月と1月のボロ市のかたづけが済んだつかの間で、桜小学校で48年続いている寒餅会（かんもちえ）の準備が始まります。児童全員に順番に杵を持たせてお餅をつく体験をさせています。あんこ、きな粉、からみ大根などの味付けをPTAと地域の方々でしています。つくたてのお餅の味は卒業しても思い出します。

様々な青少年活動に参加しています。3月には桜木中と弦巻中のボウリング大会があり、中学生最後のイベントとして参加。生徒は元気いっぱい楽しんでいました。

8月には桜小学校で夏休み期間のラジオ体操に参加する児童にノート、鉛筆などを提供して、保護者達も早起きをして頑張っています。夏休みが終わる頃、馬事公苑前けやき広場にて行われる子ども大会は57回と続いており、近隣の幼稚園児、小学校児童で賑わい楽しんで貰っています。神社境内で毎年実施している防災訓練では消火器取扱い訓練、起震車の体験など、上町防災塾は近隣の小学校中学校で町会、PTA、商店会、町会員などのいろいろな方々で、防災講師の指導の基に体験学習や防災用品の必要性を勉強します。6月と11月の古着回収は会員に回覧板で前もって知らせており、当日には回収場所へ沢山の品を持ってきてくれます。

春・秋の全国交通安全運動では期間中、役員が交代で詰め所当番をして、通行人の安全を見守りしています。防犯活動では12月に町内見守りパトロールを桜小児童も参加してもらって地域の安全を確保しています。5月の地域美化活動として上町駅前世田谷通り両側歩道の清掃作業をして通行人の足元をきれいにしていきます。

町会員の高齢者75歳以上の方々には敬老のお祝いとして区共通商品券を贈呈しています。小学校に就学する児童のご家庭には図書券を差し上げ勉強の助けにしてもらいます。

最近では広い一軒屋が無くなると、3軒の建売住宅ができ、入居した若い共働き夫婦の所に町会入会申込書を見せても、あまり家に居ないのでと受け付けてもらえません。マンションも建ち人口は増えても勤め帰りにデパートやスーパーで買い物をして商店街にはあまり寄ってはもらえません。商店では顔なじみの方がしばらく会わないと近所の人に誰れさんどうかしたのかと心配されます。

いつ災害が起こるか分かりません。普段から自分や家族の安全の心構え、連絡方法、備蓄品などを話し合い、家具、テレビなどの転倒を防ぐように準備してください。

町会ではすぐに役員が駆けつけられるよう、地域内の見守りパトロールを心掛けています。



北沢地域

心が安らぐ街づくりを目指して

小田急線の高架複々線化の整備が終了し、さぞや周辺整備の大きな変化と思いきや豪徳寺駅は従来より立体高架であったので、一部の整備にとどまっただけの事業でありました。

もっとも大変革を望み下北沢駅、経堂駅と張り合わないことで、かえって正解だと思っています。駅を利用して家路へ向かう時、商店街を見て変化の少ない景色をご覧になり、なぜかホッとする気分になる方々が数多いとお聞きします。

こうした流れの中で豪徳寺一丁目町会は、ゆったりとした街、そして町会内に在住する者同士の心のふれ合いをめざしていろいろ工夫しております。

まず大災害に備えて町会内の保育園、障害者施設、4ヶ所の高齢者デイサービスとの連携をめざして、ごいっしょに毎年防災訓練を行っています。特に保育園とは、非常時には、手押しの井戸の使用、LPガス3台、スタンドパイプ2台、D級ポンプ2台等々お互いの備品倉庫にある物品を共同使用できるようにカギを数本ずつ持っています。

そして我が町会の特色事業として、毎年7月中旬の土日の2日間にホテル観賞会を開催しています。通常の観賞会は夜間に行いますが、ホテルに負担をかけないように配慮しながら、昼夜逆転によって、昼間の時間に皆様が、観賞できますように安全面に配慮しながら鑑賞していただいております。

お見せしているホテルは、世田谷生まれの世田谷育ち、完全水道水にて元気に育てております。当日には大きな蚊帳の中で自由に飛び回り、オスがメスを求めて光輝き蚊帳の底にある水ゴケで交尾し、メスが卵を産み、産んだ卵を大事に育て、幼虫になりエサのヒメタニシを食べて来年の同時期に再び、皆様の前で元気に光り輝いてくれる訳です。

当会では、ゆったりとイスにすわり、冷房のきいた真っ暗な部屋で、観賞していただいております。こうした工夫をこらした方法は、ホテルの大研究家である松原在住の小林義忠先生のご指導により実現しています。

そしてホテル観賞会の周辺では同時進行で、隣接

豪徳寺一丁目町会 会長 田中 博光

しますご近所の駐車場をお借りして、模擬店や中学生ボランティアの皆さんにザリガニつりやドジョウつかみ、社会を明るくする運動ゲーム等々を手伝ってもらっています。ゲーム代は無料で、景品は町会内のスーパーが提供してくださっています。

また相談コーナーを設けて、まちづくりセンター、あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会、行政相談委員に協力をお願いしています。そして、更生保護女性会の皆さんに赤ちゃん休憩室で赤ちゃんを預かってもらっています。

そして費用の面では、世田谷城友の会・豪徳寺一丁目町会の共催で、北沢地域町会連合会に後押しいただいております。「地域の絆連携活性化事業」からの援助で開催しています。

余談ですが観賞会終了後にザリガニ釣りの場所をそのままにしてあることで、毎日親子連れがこちらが用意したエサつきの釣りザオで10月末頃まで楽しく遊んでいます。

もう一つの特徴としましては、新しく引っ越しされた家々に入会の勧誘をしていますが、メリットがないと断られることが多く、それでは入会のメリットを作ればと、5年間をかけてバザーの収益そして徹底した儉約を実施した結果、大災害時に町会加入世帯のみに現金で少額ですが渡せるメドがつかしました。もちろん災害時にATMが作動しなくても銀行員が現金を用意できる体制も作りました。

また、当町会では50名が利用できるホールがあり新年会、敬老の集い、気楽なお茶会等を行っております。

現在は、男性高齢者（65歳以上）の方々が町会行事に参加する体制を作っていこうと思案中です。



玉川地域

くほんぶつ じょうしんじ
我がまち九品仏、お寺 浄真寺

九品仏自治会は世田谷区の東南の一角に在り、最寄りの駅は東急大井町線九品仏で、上りの隣駅が自由が丘で下りに数駅行くと二子玉川に着きます。奥沢6、7、8丁目をテリトリーとしていて、玉川田園調布1、2丁目、奥沢5丁目、目黒区自由が丘3丁目、等々力5、6丁目、尾山台1、3丁目に囲まれています。世帯数は4千9百世帯でそのうち3千

九品仏自治会 前会長 横山 昭夫

世帯が会員で区内197ある自治会・町会でも十数番目の大所帯の自治会です。面積は0.6平方キロで駒沢公園の1.5倍の広さです。世田谷区全体の所帯が47万6千世帯で面積も約60平方キロですから人口も面積も世田谷区のだいたい100分の1と考えることが出来ます。

町内の北西に、3万6千坪の敷地を有した大寺が

でんとひかえています。浄土宗浄真寺です。創建は1678年で寺としては比較的新しく、赤穂浪士が吉良上野介の首を討ちとった元禄15年からさかのぼること25年の年に当たります。お寺が出来る前は鷲草伝説で有名な常盤姫が育った奥沢城がありました。長嶋茂雄の奥様の墓があり、昨年、松井秀喜を伴ってお参りに来ていました。

現在、三棟の三仏堂に安置している9體の阿弥陀如来（九品仏の由来はここから来ています）と本堂の釈迦如来の計10體の修復を1體2年ずつ約20年かけて京都の美術院国宝修理所で行っていて完成すれば国宝に指定されるのではないかと期待されています。



因みに真ん中の堂の中央に鎮座する上品上生の阿弥陀如来に今まで一度も嘘をつかない、肉も食べない、品行方正で、

しっかり恵みを施す人がお祈りをすると極楽浄土に連れて行って貰え、向かって左の堂の左端に鎮座する下品下生の阿弥陀如来に肉を食べ、嘘をつき、悪いことをやりたい放題の人でも一生懸命お祈りさえすれば、こんな人でも極楽浄土に連れて行って貰えるそうです。

三年に一度、本堂から中央の上品堂に橋が架けられ、24の菩薩のお面と1つの釈迦如来のお面をか

ぶった人々が、本堂から上品堂に渡り、極楽浄土の体験ツアーをする行事が有名な浄真寺のお面かぶりです。

これまでは真夏の暑い盛りの8月16日に行われてきましたが昨年からは5月5日の端午の節句の日に変更になりました。暑い盛りにお年寄りがお面をかぶっての行事でしたが御利益が有って一度も事故はなかったそうです。今年のお面かぶりはオリ・パラリンピックの2020年5月5日です。



九品仏自治会も「環境に優しく地域の絆を深めるために！」をテーマに出店者を自治会員中心にして毎年参道で行っているフリーマーケットの11回目の開催をこの日に合わせて行う予定にしています。



世田谷区は大変広いです。珍しいところが沢山あります。このお寺は晩秋の紅葉が素晴らしいです。一度九品仏に足を延ばしてみても如何ですか。

※次号は砧地域・烏山地域の情報を掲載します。

町総連ニュース

表彰

▼平成30年6月20日

東京都町会連合会表彰

堀江 鉄拡 理事（太子堂4丁目西山町会 会長）

後藤 茂 理事（東玉川町会 会長）

横山 昭夫 常任理事（九品仏自治会 前会長）

編集後記

10年ほど前から、東京23区相互の違いを「格差」として論ずる風潮が現れてきました。「立ち位置」が常に気になる日本人らしい傾向だと評した外国人もいましたが、近年はその手の書籍も多く、昨年の区議会でも記述内容をめぐりやりとりがあったということです。新たな形の「自治体間競争」とも呼ばれており、区役所にとってもなかなかシビアな時代になっているようです。

幸いなことに、どの論評を見ても世田谷区は極めて高くランク付けされているようです。人口、財政力、行政規模など、ナンバーワンの指標が多いのです。さらには、抜群の好感度や住みやすさへの期待感が高いこともあり、社会増（転入者数）も第1位となっています。

世田谷区に転入した理由として、「町会自治会活動が盛んだから」と答える人はごく少数かもしれませんが、一旦住民となった以上は「引越してきて良かった」と思ってくれるよう願わずにはられません。いつまでも安心して住み続けられるまちづくりに、町会自治会は大いに貢献してきましたし、高齢者の見守りや、来るべき震災に備えるためにも、その役割はますます重要になってきております。

そうした町会自治会の活動を一人でも多くの方々にお知らせするため、本誌が少しでもお役にたてればと願っております。

編集委員 綱木 雅敏